

HKFA Technical Report



FAコーチ通信 Vol.1 〈SSSCの取り組み〉



SSSC

サフォークランド士別サッカー
クラブ (通称 SSSC)

もともと士別にはサフォーク
ランドサッカークラブがあり、
ジュニアチームと社会人チーム
をもっていて、ジュニアチーム
の指導を社会人チーム選手など
が担っていて、
子どもたちにサッ
カーの楽しさを発
信し続けてくれて
いる。

(写真は伊勢先生)



1

概要

ゴールデンウィーク初頭、北海道FAコーチの藤代が
士別市立士別南中学校の伊勢先生を尋ねました。

士別市の中学校は、士別中学校と士別南中学校の2校
があり、そのいずれも部員数不足により単独での活動が
成り立たなくなっているという現状があります。

ここまでは、全国的に中体連チームが抱えている問題
そのものなのですが、伊勢先生をはじめ、士別のスタッ
フは、プレイヤーズファーストの観点から、持てる力を
存分に発揮し、選手のサッカー環境の整備にご尽力され
ております。

今回はその活動についてレポートしたいと思います。

2

Jr.ユース誕生秘話

各中学校の顧問としては、ジュニアチームの選手数を鑑ながら、数年前にすでに現状が見えていたため、先手を打つ必要があったそう。

そして2016年、SSSCの全面バックアップの元にジュニアユースチームを誕生させました。この決断は決してネガティブなものではなく、むしろポジティブなものとして捉え、さらに2020年ころから土別として一貫指導体制を確立させていきました。

3

SSSCの仕組み

チームを誕生させ、それが長期的に継続可能な状態にしなければ意味を持たないため、スタッフが次に取り組んだのが仕組みづくりでした。

一番苦心されたことは、運営母体について。完全にクラブ化してしまうと運営費がかさむため、保護者の負担が心配の種となるものですが、部活動として存続をしながら、クラブ運営もしていくという両輪での運営を可能にしています。

もちろんそうするにあたっては、自治体と学校側、そしてクラブとの連携がなければ実現不可能であるところを、それらをクリアすることで、保護者負担を最小限にとどめているとのことでした。



また、先日行われたクラブの総会で、各校にあった保護者会と会計を一本化することが了承され、登録料やバス代をはじめ、3年生を送る会や、卒業記念品等も各校とも同一のものを同一の会計から支出されることとなりました。以下は、SSSCのクラブとしての3つの大きな特徴です。

スタッフを土別中・土別南中から2名ずつ出しあい4名体制+クラブから派遣コーチとなるが、部活動として認められているため外部コーチ扱いとなり、コーチ料などは自治体から支払われる仕組みに。

土別市では、部活動のバス移動に関しては、年間で1校3回まで助成金が出るため、2校分で計6回、道北地区カブスリーグの3分の1はそれで賄うことができる。

トレーニングに使用するグラウンドも、各中学校のグラウンドだけではなく、近くの河川敷に綺麗な天然芝がありクラブが無料で優先的に使用することができる。



4

選手たちと
トレーニング環境

4月末時点での実際の選手数は、両校合わせて20名前後の選手が在籍しており、取材当日も強風の中21名の選手たちが楽しそうに、かつ真剣な表情でトレーニングに励んでいます。

この日のトレーニング内容は、パス&コントロールにはじまり、1対1、2対1などテクニックを重視したトレーニングを多く行いながら個を育て、最後に11対11のGAMEで締めくくるといった形で行っていました。(クラブには1年生から3年生までが在籍しているため、中にはボールに関わることができない選手がいるかと思いきや、すべての選手がレベルの差こそあれしっかりボールを止めて蹴ることができるのには正直驚いた)

GAMEには、人数がいなければ日常的にコーチが入りともに汗を流しているようですが、この日も伊勢先生が自らGAMEに参加し、選手たちを鼓舞しながらプレーしていました。また、コーチの中にはサッカー未経験者もいるが、GKコーチとしてGKに一生懸命ボールを蹴っている姿や、GAMEではアシスタントレフェリーを務めるなど、スタッフ総出で選手たち関わってくれている姿はとても素敵な光景でした。

トレーニングのスケジュールについても工夫して組まれていたので下記に紹介します。

月	屋内の多目的人工芝にてスクール(参加したい選手は誰でも参加可能)全クラブ生対象
火	2校それぞれのチームに分かれてトレーニング(土のグラウンド)
水	合同トレーニング(天然芝)
木	クラブ主導でトレーニング(先生たちはそれぞれの業務に専念できる)(体育館)
金	合同トレーニング(天然芝)

5

今後の課題

今後も継続的に活動ができるように、選手の確保は必須だと感じました。

そのため、現在も開催されているキッズ事業にもっと力を入れることや、同時にコーチライセンスの保持者を養成していくことが一層求められるでしょう。今回、伊勢先生からコーチライセンス講習会を開催することをお願いされました。地元の47F Aインストラクターの協力のもと、近日中に実施したいと考えています。

また、選手たちの進路についても考える必要があり、地元の高校にはA級ジェネラルコーチライセンス保有者の増田先生もいるため、増田先生との連携も今後必須になると感じました。

6

まとめ

今回は、士別に面白い取り組みをしているチームがあるということを知り、ぜひ訪問してみたいと思い、実現しました。

そこで感じたことなどを北海道のサッカーファミリーの皆さんと共有できたらという思いから、レポートを作成しました。もちろんこの取り組みが、すべての地域に合ったものになるとは思いませんが、一つの好事例として各地域でアレンジできる可能性はあるように思います。

もし、こういった好事例をご紹介いただければすぐにでも飛んでいきたいと思うのと同時に、様々な方面からご協力いただきながらオール北海道でますますサッカー環境の整備を進めていけたらと思います。



文責
北海道サッカー協会
FAコーチ 藤代 隆介